

第5回甲賀市学校再編審議会 議事録

会議の概要報告	
1. 会議の名称	第5回甲賀市学校再編審議会
2. 開催日時	令和6年（2024年）12月3日（火） 14:00～15:20
3. 開催場所	甲賀市役所 4階 教育委員会室
4. 議題	・第4回審議会の議事録確認について ・第2次甲賀市小中学校再編計画に関する答申書（案）について
5. 公開または 非公開の別	公開
6. 出席者	西川信廣委員（会長）、大林委員（副会長）、中村委員、井口委員、福永委員、藤河委員、藤岡委員、八木委員
7. 傍聴者数	5人
8. 会議資料	・次第 ・第2次甲賀市小中学校再編計画に関する答申書（案）について 【資料1】
9. 議事の結果概要	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 審議事項 （1）第4回審議会の議事録（案）について 事務局：議事録は概要とし、事務局が作成したものを各委員が内容確認いただき、修正等あれば12/10までに事務局まで連絡いただきたい。修正等あれば、会長、副会長確認の上、ホームページ上に掲載します。 事務局：前回の審議会における事務局の回答で、極めて小規模の4小学校の複式学級解消にかかる加配教員について、すべて市費教員である旨回答しましたが、正しくは、対象の4小学校各1名ずつは県費での加配教員となっております。加えて、市費の加配教員は5名で、小原小学校のみ2名配置しております。お詫びして訂正いたします。 （2）第2次甲賀市小中学校再編計画に関する答申書（案）について 《事務局説明》 会長：この審議会では、子どもの数が減ってきたから統合するというレベルの議論はしていない。甲賀市は新しい学校教育を作り、その中で、極小規模校、学校間連携をどうするのかを議論してきた。それを踏まえ、資料1の1ページ「学校再編（統廃合）は、」の統廃合はいらぬのではないかと。同行の「測る」はひらがなで良いのではないかと。提案する。

	委員：いろんなイメージで捉えていただく方が良いと思うので、ひらがなで良いと思う。 会長：２ページの２．再編計画の進め方について、仮に信楽中学校区に新しい義務教育学校を作ったとして、多羅尾小学校の子どもが移ったら多羅尾小は廃校になった学校かという風に言われる。今度の甲賀市の取り組みの一番のビジョンは、信楽の小中義務教育学校を基幹校と位置付ける。そして他の学校は廃校になった学校ではなく、地域学校とする。信楽小学校区以外の子どもたちも含めて、どんな歴史があるのか、なぜ人が減ったのか、一緒に勉強する。地域の方も日常的に地域学校で会議をしたりする。そういうことを描いている。 委員：理想の形だと思う。それを具体化するために教育行政に関わる方々の努力が必要。地域の方にとっては、廃校、閉校ではなく、校舎を大事にして、１学期や１年に１回その学校で学び、地域の歴史を知るということは良いことであり理想。土山小学校の子どもたちが鮎河や山内に行って地域を学ぶ実践をしていることもあるので、地域校として学びの場の核となっていくことが理想と思う。 委員：今コミュニティ・スクールができて、自治振興会の中で小学校区単位で動いている。例えば、公民館機能を自治振興会が持ち、社会教育もやったらどうかと思う。小学校を自治振興会の公民館として利用すると良いと思う。 会長：それが国の政策である。社会教育と学校教育の結合を考えている。例えば基幹校のしがらき学園の学校運営協議会地域協働支援本部には多羅尾や他の校区の代表も入ってもらおう。自分たちの地域のことを発言してもらい、社会教育と一緒にやって地域の活性化を図っていく。そのためには子どもの移動手段の確保も必要で、市の負担も発生するので、一定財政的な裁量も必要。 委員：当初会議に出席する際、また再編の話をするのかという気持ちだった。しかし会議の中で、新しい教育の形を考えるということを知ってもらったので、会議に参加していない人も解るような言葉をつけてもらえたら良いと思う。また、地域の方も再編の話は関心事なので、統合するだけではなく、甲賀市が１５歳をターゲットにした教育を作ることを考えていることが、広く解れば良いと思う。 委員：議論の中であったと思うが、第１次の再編計画がうまくいかなかったことがあまり触れられていない。今発言のあったことが、うまくいかなかった理由に思う。第１次の計画は、何のために学校再編するか明確でない。その結果、地域の方は自分の母校が消滅するとか、それに対する不安があって、賛同が得られなかった。 委員：小中一貫教育という言葉聞いたときは、エスカレーター式の
--	---

	学校のイメージだった。ニュアンスがうまく伝われば、理解が得られるのではないかな。 会長：義務教育学校というのは小学校でもなければ中学校でもない。一体型と併設型があるが、9年間の中の組み合わせは本当に多様で、4年生と3年生と一緒に勉強したり、9年生と1年生が何かをしたり、そんなことができる学校。複数の教科を合体させたりできる夢のある取り組み。 委員：3ページの3、「こども」の「こ」は統一した方がよい。前回まで議論していた、たたき台は答申書の最後につけるのか。またアンケート調査はどうなったのか。 事務局：たたき台は答申書にはつかない。たたき台は、審議資料としてお示しし、ご意見をいただいた。そのご意見を答申書という形でまとめている。答申書にない計画に関するご意見を含めて、計画素案として作成していく予定。アンケート調査については、当初実施予定をしていたが、実数把握では、意味がないというようなご意見もいただき、アンケート調査は、最終的に計画ができ上がった段階で、そこから再編を進めていく際に、保護者の方、地域の方含めての意向を伺う形のアンケートを実施していきたいと考えている。 会長：そういう流れのアンケートは必要か。学校づくりの計画を説明する場所が必要だが、計画に反対する結果の場合は、白紙に戻すのか。 事務局：アンケートの取り方、内容による。「再編＝新しい学校教育のあり方」についてご理解をいただくための説明会が大前提として必要であると考えている。その理解度や、ご意見を伺う意味合いでのアンケートを実施することで、より意見交換、相互理解が深まっていけばありがたいと考えている。 会長：次のステップへ行くために実施するということですね。 委員：アンケートを実施した経験上、学校統合に関わって3回実施してきた。まず学校運営協議会で地域に対して、統廃合をどう思か漠然的なことを聞く。統合が決まったときに、どんな不安、心配があるかを聞く、そして統合した学校について、どうかという評価的アンケートを実施した。やはり対象の地域を絞ったことが良かった。ここでアンケートというよりは説明の方が良い。 委員：地域学校という話があったが、この地域学校は、子どもを指しての地域学校ということではなく、地域の大人も子どももというイメージを強く出していくと良いと思う。先進の実践校があるので、そういう話を地域の方からしていただくと、すごい安心に繋がると思う。 委員：新しいこと、今までにないことをすることは、若い人は理解されると思うが、年配の方には、自分らの時代はこうだったという
--	--

	思いを持っておられる。しっかり説明をしてもらって、そこでたくさん質問をもらって、理解をしてもらうことが重要と思う。 委員：小中一貫という新しい教育を考えるのであれば、たたき台の最後のページの「小中学校適正配置計画一覧」は、外した方が良いと思う。こういう形になると勘違いされる。また、この審議会の意見は教育委員会が責任を持って進めるということになるのか。今の議論が継続されるのか、全然違うものに切り換えられるのではないかと心配である。 会長：答申を今度教育長に出すが、その後どうなるのか。 事務局：答申書をいただいて、その答申を一定踏まえた中で、計画素案を作成する。審議会は計画素案を作るため、ご意見をいただくために開催いただいている。前回、たたき台で議論いただいた内容がベースとなり計画素案としていく形となる。 会長：それが例えば、信楽の校区を義務教育学校化し、どういう保幼小中連携やるのかを事務局に任せて書けるのか。 事務局：計画素案の内容に、新たな学校教育の具体的内容を盛り込むことは難しい。再編計画という名前ではあるが、方針を示したものが現在の計画。それを引き継いだ第2次計画を作成し、それと並行しながら、甲賀市がめざす新たな学校教育のあり方を、別途検討していくことになるのではないかと、想定をしている。 事務局：手続きとしては、この会から教育長に答申をいただき、教育長はそれを踏まえ、再編計画の第2次計画の素案を作り上げ、教育委員会、議会で説明をさせていただきながら、教育委員会にお諮りし、最終は教育委員会で決定するという流れとなります。 委員：15歳の子どもをイメージしながら育てていくこと、学校で培ってきた地域の文化、郷土愛も、残しながら一緒になってやっていくというあたりが一番大事な部分。そこに絞って書かれているので、幹の部分をしっかりしておけば良い。今後具体的な部分はいろいろ問題が出てくると思う。教職員定数や教員の配置、市の予算など支出を伴うこともあり、今までから手厚くやってきたことが、この後具体的に進むにあたり、どうなるのかなというイメージ。先進的事例の情報も交えながら計画すると思うが、地域の人や保護者の方には、まずもって、15歳の子供を育てるためにという部分が浸透して欲しいという思いがある。 会長：保幼小の連携について聞くが、現在こども園はあるのか。 事務局：全部ではないが、公立、私立ともにこども園はある。 会長：保幼小連携のイメージはどのように持っているのか。幼稚園と保育所で横の連携はできているのか。 事務局：公立の保育園はあるが、公立での幼稚園はなく、私立の幼稚園が1園。幼稚園型のこども園が1園、保育園型のこども園は複数ある。
--	--

	会長：行政的に保育園は、教育委員会の所管を外れるため、私立の幼稚園への働きかけが難しい。こども園を作ったときに、そのこども園が保育園型なのか幼稚園型なのか、小学校との連携をどうするのかという問題。5歳児担当者の免許資格の問題など、教育委員会の学校教育だけでは対応しきれない。そういうことを踏まえてやっていただきたいということ、この審議会で議論があったことを記していただきたい。 会長：甲賀市の小学校に5歳児が通うというシステムはありますか。例えば週3日間、5歳の子供が1年生クラスの横にいたりとか、5歳児の小学校登校です。 事務局：していない。 会長：週3日間、空き教室を使い、5歳の子どもが1年生クラスの横で、生活や図工の授業を一緒に行う。5歳児の教員と1年生の教員が連携する。こういうのも保幼小連携。あとは6年生の中学校登校も良い。 委員：保育園、小学校の連携と情報交換は大切だと思う。支援が必要な傾向にある子どもが入ってきたときに、学期が始まってから先生が対応を考えられていた。先生が大変だと思う。 会長：例えば5歳児の小学校登校、6年生の中学校登校を当たり前にするということを書いたらどうかなと思う。 委員：新しい学校づくりをして、説明会で関心を持たれるのは、中学年・低学年、そして保育園の保護者の方。やはりそこに魅力ある学校づくりということをアピールすると大きな力になる。 委員：その他再編に関する事項の2つ目ところで、これは、小中一貫のカリキュラムですることだと思うが、市内見渡しても小学校と保育園は隣接しているところが幾つもあるので、その土地の利点を生かして、何か新しい教育を作り上げていける可能性があるというところは、今お話に出てきた意図という形で、答申の方も、理解したらどうか。 委員：幼稚園の先生からすると、年長は非常にしっかりしていると言うが、1年生のときには、小学校の教師からすると頼りないと感じる。それと同じことが小中でもあり、小学校6年でしっかり活動しているが、そうした力が中1になったら全然発揮できない。こういう問題は共通理解されているが、保幼、小中の連携はそうした問題の解消にも非常に大きな役目を果たすと思う。 会長：保幼小の連携、小中の連携もあり、基幹校、地域校の名前を入れ、もう少しボリューム的に増えてもいいかなと思う。 会長：今後、答申をまとめるが、文言に関しては会長と副会長が最終的に、目を通させていただいて、文言を調整させていただくということではよろしいでしょうか。ご了解いただきます。 会長：修正するところは、1ページ目の「統廃合」を削除、「測る」を
--	---

	ひらがなにする。「廃校」という言葉を使わない。基幹校の開設によって、地域校となった学校施設の活用についてはとかね、そういう文章にすればいいかなと思います。 委員：2ページの最初、再編は学校規模によるものではなく、甲賀市がめざす学校教育の実現のため、これもどちらかと言うと並行的な感じで、この後半の甲賀市の学校ビジョンを明確にして魅力ある学校をつくることを目的にして再編をするとした方が、非常に理解しやすい。このままだと並行になった感じがして、因果関係が見えない。 会長：ここは学校再編っていうものは学校規模によるものではないということを言いたいから最初を書いてあった。例えば、今回の再編は、甲賀市の学校ビジョンを明確にし、魅力ある学校づくりを目指すために行う。その次に、学校再編は、学校規模のみによって行うものではない。という風に書いてはどうか。 事務局：地域校となった学校施設、この部分については、例えば生涯学習やその地域での社会学、地域学、それを小学校、中学校という単一のものではなく、より集まりやすい、広い範囲でいろんなことを学べるような、そういう意味合いでの学校ということで捉えて良いか。 会長：それで良いと思う。その時に、例えば多羅尾小学校の名前を残し、多羅尾小学校がそういう機能を持った組織にすれば良い。名前を消してしまうと、なくなることになる。そこの地域の歴史・伝統・文化、それからお年寄りの集まる会の場所、そういったものとして残さないといけない。ただ、電気と水道は、ワンフロアだけでも活かさないといけないから、その分が市の負担と言う人もいるが、それは必要な経費だと思う。 事務局：施設の現状で利活用に足るような施設もあれば、老朽化が進んでいる施設もある。状況を確認しながら、取り組んでいくということの意味合いで、ご意見をいただく。 会長：地域校だから、地域の皆さんのご意見も当然反映される。地域の方が、もう廃校しても良いとおっしゃったらそうすれば良い。でも、教育委員会はこの学校は大事なんだと言って残していくということも必要。地域校という意味はそこで、地域の方の意見が最終的な決定にしてくれたら良い。子どもが0になりそうであれば、別の施設に転用することが出てくるかもしれない。 会長：今後のスケジュールを教えてください。 事務局：本日の審議会の意見を踏まえ、答申書の修正を行い、会長、副会長に確認をいただき、最終答申書として、12月中旬ごろに教育長に答申書を伝達いただく。 会長：委員の皆様が答申をご覧になるのは教育長に渡した後になるのか。
--	--

	事務局：紙ベースでお渡しできるタイミングはないかもしれない。 会長：教育長に答申書を渡してからの方がいいかもしれませんね。是非、この答申に盛り込んだビジョンが、甲賀市の学校教育をどんどん良くしていってくれることを期待しております。 4. 副会長あいさつ（大林副会長）
10. その他	